

日本の近代工芸 74 点がパリで展覧会 欧州で初紹介の作品も

国際交流基金(ジャパンファウンデーション)では、今秋、日本が海外に有する最大級の文化交流施設であるパリ日本文化会館にて、「近代日本工芸 1900-1930—伝統と変革のはざまに」展を開催しています。

本展は、1900年から1930年の間に制作された作品74点を、陶芸、染織、漆工を中心に紹介するものです。古美術や現代アートに比べ、これまで紹介される機会の少なかった近代の工芸が、京都国立近代美術館をはじめとする日本国内の美術館・所蔵者の協力の下、はじめて欧州にてまとまったかたちで紹介されています。

1900年にはパリ万博、1925年には現代装飾美術産業国際博覧会(通称アール・デコ博)が開催された都市パリにおいて、その時代の日本人作家たちの伝統と革新に満ちた作品がどのように受け止められるのか、あわせて開催する講演会やシンポジウムを通じて新たな解釈が期待されます。



1



2

1. 杉林古香「鶏梅蒔絵文庫」1906、2. 五代清水六兵衛「青華蘭四方花瓶」1924 (ともに京都国立近代美術館蔵)

「近代日本工芸 1900-1930 — 伝統と変革のはざまに」展 ***“Les arts decoratifs japonais face à la modernité 1900-1930”***

会期 2010年10月13日(水)～12月23日(木)
会場 パリ日本文化会館 (Maison de la culture du Japon à Paris)
101 bis, quai Branly, 75015 Paris, France
Tel.+33-(0)1 44 37 95 00 Fax.+33-(0)1 44 37 95 15
企画・監修 松原 龍一(京都国立近代美術館主任研究員)
主催 国際交流基金、パリ日本文化会館、パリ日本文化会館支援協会
協力 京都国立近代美術館
協賛 全日本空輸株式会社

詳細 <http://www.jpff.go.jp/i/culture/new/1007/07-01.html> (和)
<http://www.mcjp.fr/> (仏)

【公開プログラム】

「近代日本工芸 1900-1930—伝統と変革のはざまに」展記念国際シンポジウム “東西文化の磁場”

2010年11月18日（木）14:00~19:00（日仏同時通訳）於 パリ日本文化会館大ホール

司会進行：山野 英嗣（京都国立近代美術館学芸課長）

- ・尾崎 正明（京都国立近代美術館長）
- ・稲賀 繁美（国際日本文化研究センター研究部教授）
- ・加藤 哲弘（関西学院大学文学部教授）
- ・出川 哲朗（大阪市立東洋陶磁美術館館長）
- ・松原 龍一（京都国立近代美術館主任研究員）
- ・Christoph Marquet（Professeur à l'INALCO）

※本シンポジウムは日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（A））による研究課題「東西文化の磁場—日本近代建築・デザイン・工芸の脱一、超一領域的作用史の基盤研究」の採択研究の一環として開催されています。



3. 「時代衣装 緋御召矢羽文様着物」大正～昭和前期（所蔵：野口晴代）、4. 高村豊周「插花のための構成」1926年頃（個人蔵）

パリ日本文化会館とは

(仏) www.mcjp.fr/ (和) www.jpf.go.jp/mcjp/

1988年より「日仏協力・官民共同のプロジェクト」という基本理念のもと設立準備が進められ、フランスおよび欧州における日本文化の発信基地として、21世紀の新しい日欧関係の構築、また日欧の文化・社会・経済など幅広い分野での緊密な交流に資することを目的として、1997年5月にパリ15区、エッフェル塔近くのセーヌ河畔に開館しました。地上6階・地下5階の建物は、日本が海外に有する文化交流施設としては最大級のものであり、展示ホールでの大規模展示や大・小ホールでの公演・映画・シンポジウム、図書館事業などの各種事業が実施されています。

お問合せ先： 国際交流基金 文化事業部 造形美術チーム（担当：金子 美環）
〒160-0004 東京都新宿区四谷 4-4-1
電話 03-5369-6062 / FAX 03-5369-6038 Email: Miwa_Kaneko@jpf.go.jp